

卒業生の皆さん、よく頑張りました！

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒業を心よりお喜び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、中央高校での学校生活はいかがでしたか。新型コロナウイルスの感染症拡大に伴って、在校中に臨時休校があったり様々な制約を受けたり、他の世代とは違った大変な思いをしたことでしょうか。卒業を迎えるにあたり、「頑張れ！」という言葉がけについて、世間一般の人々がどのように感じているかを紹介したいと思います。

「頑張れ！」という言葉には、相手に対して「応援」の意味を持つときと「負担」を感じさせるときがあるようです。例えば否定的な意見として、「その言葉の後には必ず結果が求められ、プレッシャーを感じる」「もっと努力しなさいという呪いの言葉」「自分は相手のことを気に掛けている、といった自己満足的な言葉」など、特に心や体が疲弊しているときや傷ついているときには辛く感じる人が多いそうです。

一方、肯定的な意見として、「病気のときには、うれしくて励みになった」「前進・向上・到達へとつながる良い言葉」「あと一步踏み出して可能性を広げ、未だ知らない未来を見つけてほしい、といったエールの言葉」また、「人間とは、いつまでも何かを頑張っていて、誰かのために一生懸命になろうとする生き物かも？」といった意見もありました。

では、中央高校を卒業する皆さんはどうでしょうか。学校には楽しく通えましたか。時には辛く行きたくないと思ったときはありませんでしたか。そんな時にもしかしたら「頑張らなくても良いよ」と声をかけてもらって気持ちが楽になった人や、友だちがもがき苦しんでいるときに「一緒に考えよう！」と励ましたり、壁にぶつかって行き詰まった人に「ボチボチやろうよ！」と肩の力を抜くことを提案したりした人はいませんか。「頑張れ！」という言葉以外にも、相手の気持ちに寄り添う優しい言葉がけはたくさんあります。

中央高校に入学できて、ようやく学校に通えるようになった人、何とか友人が作れた人、進級・卒業が危うかった人、皆さん全員がたくましく成長しています。どうか自信を持って次のステップに進んでください。次の言葉がけは間違いありません。皆さんは「本当に、よく頑張りました！」皆さんのこれからの未来に幸多かれ！

令和4年3月1日

校長 内木 泰志